

こんにちは 2017年7月13日 第144号

ちかざわ美樹です

日本共産党 市議会議員活動報告



chikamiki222@gmail.com

☎&fax 042-582-1870

☆自宅:日野市万願寺 6-35-9

カサベルデ 201

☆ちかざわ事務所(三沢中学校

のそば)日野市三沢 1-13-5

いつでも、どんなことでもお電話下さい ちかざわ携帯 ☎090-9313-1192

高すぎる国民健康保険料、値上げなどとんでもない！

国民健康保険は大切ないのちづな

平成29年度の国民健康保険料(税)の決定通知が届きましたでしょうか。

国民健康保険は、日本で暮らす誰もが公的医療保険に加入し、医療を受ける権利を保障する重要な役割があります。

2015年度の厚生労働省国民健康保険実態調査によれば全国の国保加入者の44.1%が無職、派遣やパートなど非正規雇用などの方々が34.1%となっています。

所得に対して高すぎる保険料負担

組合健保や協会健保などに比べて国保加入者の平均所得は低いにも関わらず、保険料負担の割合は非常に高くなっています。先の調査によれば、所得に占める割合は、全体で10.2%にもなっています。

また、昨年度の国保加入者の38.2%が65才以上75才未満の高齢者です。高齢者は医療を必要とする度合いが高くなるため、国保は他の公的医療保険よりも医療費が高くなる傾向があります。国保は必要な医療費を加入者に割り振る仕組みとなっています。払えるかどうかに関係なく、加入者に負担させるために保険料が上がり、滞納せざるを得ない人が生まれてしまいます。

「自己責任」をおしつける社会保障改悪

国保は社会保障として運営されており、民間の保険とは異なります。国の負担がなければ維持できません。にも関わらず国はずっと負担割合を下げ続けておりその分が保険料、あるいは自治体独自の負担に転嫁されてきました。

平成27年度から低所得の保険者に対する支援として国の負担を増やしてきましたが、社会保障・税一体改革では根本に「自助、相互扶助の徹底を図る」狙いがあり、自己責任が強調されています。

今後ひとり2万5千円値上げが必要？

国保は来年度からこれまでの市町村ごとの運営から東京都全体での運営に変わります。6月に開かれた日野市国保運営協議会で広域化に伴い値上げの方向が示されました。日野市が保険税を抑える為に一般会計から国保会計に繰り入れている約10億円を保険料に上乗せすると一人当たり2万5千円となります。

これでは今後国保によって国民の貧困がさらに広がってしまいます。保険料の不足を加入者に求めるのではなく、国や東京都が運営の責任を果たすべきです。

ごみ広域化計画強行は許されません。白紙にして住民と一からの見直しを！

【日本共産党の無料法律相談】 第1.2.3木曜日予約制です

第1.3木曜日 18:00~20:00 第2木曜日 13:00~15:00



九州大水害 救援募金に ご協力を

九州地方を襲った集中豪雨による大水害の犠牲者に哀悼を捧げ、被災者にお見舞いを申し上げます。

日本共産党は対策本部を立ち上げ(本部長は小池晃書記局長・参議院議員)、現地に国会議員を派遣し、地元党組織・議員と協力して被災者支援に全力をあげています。全国でも救援募金を呼びかけます。救援募金に、みなさんのご協力を心より訴えます。



▲花月川の護岸崩落現場を調査する仁比参議院議員(右端)ら=6日、大分県日田市

東京民報
ご意見・ご要望は03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2017年7月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介し、
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第3種郵便物認可

募金の受付先は

郵便振替 00170-9-140321

日本共産党災害募金係

※必ず「九州水害募金」とご記入ください。

日本共産党

日本共産党 95 周年記念講演会

7月19日(水) 18:30~

お話: 志位和夫 党委員長
不破哲三 社会科学研究所
所長

中野ゼロホールで行われる講演会はインターネットで中継されます。

日野市での視聴会を生活保健センター講座室で同時刻に行います。ぜひ一緒に視聴しましょう!

区画整理懇談会のご案内

7月29日(土) 10:00~12:00

場所: 東町交流センター

アドバイザー 中野あきとさん

個別の御相談にも応じます
お気軽にお越しください



日本共産党発行



日刊 3497円
日曜版 823円



東京民報は東京がよくわかる週刊新聞、月額400円です。いま大注目の東京都政。他紙には決して掲載されない独自取材のニュースが満載の東京民報。見本紙をご希望の方はすぐお届けします、ご遠慮なくご連絡下さい。

いのちがいらばん

都議選が終わるといっぺんに真夏の様相に。素足で履くサンダルは、5年前に亡くなった母の「おさがり」。脳梗塞で重い後遺症が残った母は靴で歩くことはなくなったのだけれど、それでも「母らしい姿」でいて欲しいと、それまで夏になると愛用していたドイツ製のサンダルを買いました。都議選で中野あきとさんが、「尊厳を守る都政を」と訴えました。デンマークで見学した高齢者施設の個室は、その方の人生が凝縮されているような個性的で自由な空間でした。だれもがどんな時でも自分らしくいることを尊ばれる、そんな社会を。国民を「こんな人たち」と呼ぶ首相にはもう、引導を渡さなければなりません。



ちかざわ美樹